

### 『融合と発信』をテーマとした「自由・気楽な出会いの場」へ

「コンサルタンツ北海道」発刊100号おめでとうございます。平成元年に発足しましたわが青年技術士協議会としても喜ばしく、お祝い申し上げるとともに、4月18日に行われた総会・春期研修会の報告をさせていただきます。

#### 1. 平成15年度総会

本総会をもって、副会長時代から5期10年(内会長2期4年)の舵取りを務められました加治屋会長が退任されました。加治屋会長には長期間にわたり青年技術士協議会をリードして頂いたことを出席者一同感謝するとともに、今後は椿谷新会長のもと、幹事一丸となって本会をさらに発展させる決意を新たにしました。加治屋会長からの最後のあいさつでは、本会が“貴重な出会いの場”であることを確認されるとともに、そのネットワークを縁の下で支えている“EPO”についての開設当初から今日に至る生い立ちの説明がありました。

また、3期6年の間、幹事長を務められ、今回退任される太田幹事長からは、平成14年度活動報告と平成15年度活動計画を説明して頂いた後、これまでの青技協活動を通しての感想として“形式ばらずに自由・活発にできたこと”をしみじみと語って頂きました。

最後に、椿谷新会長から、退任される幹事の方々へのお礼の言葉とともに「融合と発信」をキーワードに今後のさらなる発展への固い決意を述べられました。

#### 2. 春期研修会

総会後の研修会は、「変貌を遂げた札幌駅南口とJRタワーに生きる技術」というテーマで、今春オープンし予想を上回るにぎわいをみせている“JRタワー”に

関して2名の方々にご講演を頂きました。

#### 【講演1：札幌駅南口に見る都市再開発】

講師：

札幌市都市局市街地整備部再開発課 溝口係長

講演要旨

昨年7月にワールドカップ組織委員会から再開発課に来て、まだ一年経たないうちに札幌駅南口開発を担当されたとのことで、事業の経緯について以下の項目に沿って説明を頂きました。

- ・ 札幌駅周辺地区整備構想の基本方針と課題
- ・ 札幌駅南口地区の土地利用について
- ・ 札幌駅南口街づくりの流れ
- ・ 都市まちづくり計画の主なポイント
- ・ 北5西5街区整備事業プロポーザルについて
- ・ 札幌駅周辺地区開発現況について

最後に、着任早々に未着手であった北5西5街区プロポーザルを担当された時の苦労話を聞くことができました。



写真-1 溝口氏講演の様子

## 【講演2：JRタワー建設に関わる技術】

講 師：

JR北海道工務部 新宮課長（技術士：建設部門）

### 講演要旨

タワー建設における技術面（特に工法等）について次の項目に沿って興味深い説明を頂きました。

- ・ JRタワー建設の技術
- ・ JRタワー周辺の工夫・技術
- ・ JRの支援体制

全般に技術的な内容であり、施工性、耐震性、構造的性に優れた各種新工法の採用、さらにはエネルギー効率を考慮したシステムの採用など施設全体が建設当初から安全で効率的に創造されてきたことを強く感じました。

また、建物自体の出現によって新たに発生した冬期間の吹き溜まりに対しても、JR技術者の知恵を結集した創意工夫で解決された経緯も興味深く聞かせていただきました。



写真-2 新宮氏講演の様子

### 3．青年技術士協議会平成14年度を振り返って

スタートである春の研修では「障壁に立ち向かう技術士」というエネルギッシュなテーマで始まり、夏期

研修では「環境」を取り上げ亀海副会長のバルバドス通信やEPOを舞台にしたのネットフォーラムで意見交換を行いました。また、秋の研修会ではちょっと硬く、規制緩和への期待をこめて「特区」を取り上げ北海道経済への適応性を考えました。

平成14年度の青技協活動は、タイムリーなテーマに基づいた3回の研修会を柱に、その間をつなぎ合わせるメーリングリスト“EPO”での情報・意見交換によって連続的で幅広いものにすることができました。

### 4．これからの青年技術士協議会

技術士試験の受験要領が変化してゆく昨今、平成14年度も多くの新会員が誕生しました。その結果、総会・研修会には100名以上、その後の懇親会にも80名近い出席を頂いて大盛況であったことに加え、EPOの参加者も300名以上となってきていることから、若い(?)技術者のネットワークが確実に広がってゆく良い雰囲気を感じました。

青年技術士協議会は、来る者を拒まず、いつでも優しく(?)受け入れてくれる“自由・気楽な出会いの場”です。

これからもこの貴重な雰囲気を保ちつつ、新年度は『融合と発信』をテーマとして常に新鮮なテーマを取り挙げて活動していきたいと考えております。

会員のみなさまにおかれましては、できるだけ多くの方に青技協の活動に参加し、その良さを実感して頂いた上で、様々な活用方法を提案して頂ければと考えております。

（文責：青年技術士協議会幹事 岩倉敦雄）